きらり人

生き生き人生　わくわく私

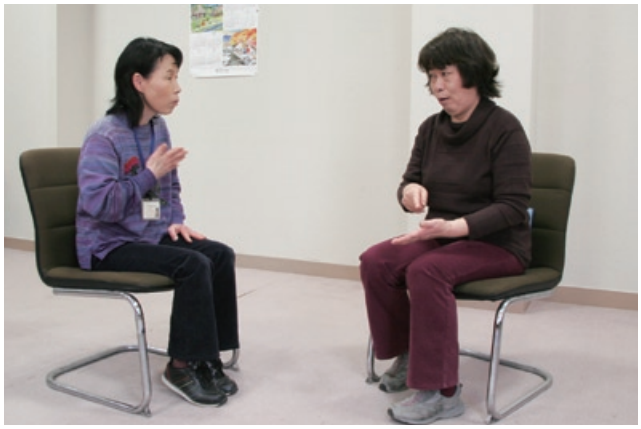
手話をもっと広めていきたい

武田 祐子さん（下吾川）

武田祐子さんは、昨年11月の『伊予市市民ふれあいのつどい』で、生まれつき耳が聞こえない自身の体験を発表しました。そして、手話サークルやボランティア活動に積極的に参加し、障害を持ちながら自立に向かって努力していることに対して表彰を受けました。「30年以上前、幼い長男がやけどをした際、電話はできないし、ファックスもなかったので、近所の人にお願いしてタクシーを呼んでもらい、病院で診察を受けることができました。こうした耳が聞こえない人の体験を知ってもらうためにも、発表をして良かったです。」

武田さんは、『手話サークルどんぐり』で週1回、代表の山下さとしさんと共に小学生や大学生を含むメンバーに手話の指導を行っています。また、社会福祉協議会主催の手話講座の受講者が結成した『コスモスの会』でも、週1回、手話を教えています。さらに、月1回、『グループホームユニットいよ』を訪問し、高齢者と折り紙を折って交流する折り紙ボランティアも行っています。そして、市内の小学校の総合学習の時間に、子どもたちに手話を教えたり、聞こえない人の生活を伝えたりもしています。

武田さんがこうした活動を始めたのは、『どんぐり』代表の山下さんの誘いがあったからです。武田さんと山下さんは、『どんぐり』で約10年前に出会い、交流を深めてきました。2年前に山下さんが『全国統一手話通訳者登録試験』に合格した時は、一番に武田さんに知らせてくれたそうです。「活動に積極的に参加できるのは、山下さんと一緒だと安心できるからなんです。」



▲愛媛県登録手話通訳者の山下さとしさん（左）と

【耳マーク】
このマークは、聞こえが不自由なことを表す「耳マーク」です。口元をはっきりさせて話したり、筆談をするなどの配慮が必要です。

結婚以来、ご主人が営む理容店を手伝っている武田さん。手話ができない人とは、大事なことは筆談し、ほとんどは身振りや相手の口の動きを見て判断します。聞こえないことは、生まれつきのため不便はないそうですが、大きな踏切を渡るときや狭い道路では、周囲の安全に気を使います。「昔、電車が来たことに気付かず、電車を止めてしまったことがあるんです。その時は、悔しくて、家に帰って泣いてしまいました。後でその場所に信号がつき、ほっとしたのを覚えています。」

そんな武田さんが最近うれしかったのは、「郵便局に振込の手続きに行った時、職員の方が『お名前を書いてください。』と手話で対応してくれたことです。私は、同じ障害を持つ方には、一般の方に負けないように助け合ってがんばりましょうと言いたいです。そして、通訳者がいなくても、お互いに手話で会話ができるくらい、手話が広まってほしいですね。皆さん、一緒にサークルで手話を学んでみませんか。」